

1 新作問題を解く意味～過去問学習との関係（主として択一对策）

- ・過去問学習の達成度をチェックする。←ここがもっとも大事 具体的には過去問で出題されたことがある知識か否かの判別がつくこと。
- ・自分の知らない知識の補充をする。
 - ① 改正法，比較的有名な判例（最新判例のすべてではなく多くの受験生が知っている比較的新しい判例で自分が知らないもの）
 - ② 過去問未出であるが比較的受験界で有名な論点
 - 新しい知識を補充するときの注意点：知らない知識・判例をとりあえずストックすること自体はあまり意味がない。消化して本試験会場に持って行けるか（記憶という形で）が重要。
- ・その昔，とある有名受験予備校講師から聞いた話試験に出題される問題は 2 種類しかない。それは自分が知っている問題と自分が知らない問題の 2 種類である。→一見するとあまりにあたりまえでインパクトのない話。

2 新作問題の解き方～過去問学習との関係（主として択一对策）

- ・前述の本試験で出題される問題には 2 種類あるとの考察から，新作問題，そして本試験問題の解き方も 2 種類となるはず。
 - 複数回不合格となった受験生に多いアプローチ：自分の知っている問題を増やしていくアプローチ→基本知識の空洞化を招かないように注意が必要。
 - 私の推奨するアプローチ（かつて全ての問題を知識で解こうとし，挫折した元受験生の経験）：問題を解く際に使う知識の範囲を形式的に決めてしまう（過去問出題知識のみとか，自分が何度も読み返しているテキストなど）。この知識のみを使って（これは正に理解や推測する能力も使ってということ）新作問題を解く。このやり方だと安易に知識不足を言い訳にできなくなる。このやり方で，本当に何点とれるのか，合格点まであと何点足りないのかをはっきりさせ認識することが重要。
- ・知っている問題は自分の知識でサクッと解く。知らない問題は自分の現有の知識から考える，推測するなどして解く（逆に考え，推論できれば十分と考える。）。

3 新作問題の復習の仕方～過去問学習との関係（主として択一对策）

- ・復習の仕方はすごく重要。ここでも前述の試験問題には2種類あるとの考えを適用する。
- ・全ての問題について知識を確認しながら復習していく方法：自分の知っている問題が多くの受かりそうな受験生に比べて明らかに少ない場合にはこの方法をとるか、過去問学習の精度をあげる必要がある。
- ・知っていなくてはいけない問題なのかそうではないかの見極めに使う。→個人的には模試を受験する意味はここにあるとすら思っている。→問題の正答率と肢別の選択率のデータは宝の宝庫、この分析に復習時はある程度時間を使う。

4 サンプル問題（司法書士全国総合模試よりセレクト）の解答データ

正答率：57%

肢別解答率

肢1：8% 肢2：6% 肢3：23% 肢4：7% 肢5：57%